



岩見沢市長 松野氏3選

「地域課題 答えを出す」

広域連携にも意欲

松野氏は同日午後4時40分すぎに事務所に着。届分け出締め切りの午後5時に、後援会のメンバーが、

【岩見沢】23日告示された市長選挙、無投票で3選を果たした現職の松野悟氏64無所属は、3期目に向け、「これからの4年間で、今の岩見沢の課題に対して答えを出すのが私の使命。しっかりと成果を出していく」と決意を語った。(中沢弘一)

市民対話さらに重視を

〈解説〉岩見沢市長選挙は、2006年以来、14年ぶりの無投票で現職の松野悟氏が3選を果たした。新型コロナウイルスの影響で、市民の間に選挙戦を敬遠する雰囲気があったことが大きいが、対抗馬が出なかったことも「民意」だ。ただ、選挙戦がなかったことで、人口減対策や市立総合病院の建て替えなどの重要課題に対し、市民が意思表示する機会が失われた。3期目は、これまで以上に市民との対話を重視していく必要がある。無投票当選は、戦後20回に制限され、松野氏自身も

市選管から届け出締め切り連絡があったことを報告すると、支持者からは大きな拍手が上がった。新型コロナウイルスの感染防止のため、松野氏は事務所近くの外でマイクを握り、「地域課題を一つ一つ乗り越え、南空知の市町としっかりとスクラムを組みながら、まちづくりを進めていきたい」と強調。「(他市町との)広域連携について、岩見沢市がしっかりと対応し、汗を流していく」と述べた。今回、2006年以来、14年ぶりの無投票となり、選挙戦は1日で終了。「4年間、命を懸けて取り組もうとする政策、公約の中身を直接市民に訴える機会が



無投票で3選を決め、花束を受け取る松野悟氏(左)と妻の緑さん(23日午後5時45分ごろ)